

# 勝山市旧機業場保存について

勝山市長 山岸正裕

## はじめに

12月5日に勝山市指定文化財に指定された「勝山市旧機業場」は、過去にも解体撤去するか、保存するかの判断を求められる局面がありました。保存を求められた理由が、廃業当時のまま保存され現在に至っています。最近、改めてこの保存整備の是非についてのご意見をいただいておりますので、勝山市指定文化財としての重要性、保存決定に至った経緯と理由、および活用案、事業費などについて、説明をいたします。

## 機業場の価値

勝山市旧機業場の価値は以下の4点に集約できると思います。  
○建物の多くの部分が、煙草産業から繊維産業に転換した年である明治37年に建てられている  
○明治期の繊維工場は、県内ではほとんど残っていないなかで、玄関や事務所などを備えた本格的な工場としての姿を、今に残している  
○工場棟には糸繰り機や整経機など多くの機械類や器具類、また、下足箱や仮眠室、乾燥場などがよく残され、当時の機業場内部の様子を伝える貴重な産業遺産である  
○明治後期から大正前期の木造二階建ての建物が、そのまま現地に勝山市所有物として残っている

勝山では、これまで歴史的な建物や構築物を多く取り壊してきました。その代表例が江戸時代の勝山城跡であり、煙草産業のシンボルともいえる専売公社です。  
江戸時代の城跡、勝山の近代化を支えた煙草と繊維の遺産。このうち、城跡と煙草の遺産はなくなりました。今回、「繊維」の遺産の建物がなくなれば、勝山の歩んできた近代化の歴史は、記録や博物館の中でしか、分かんなくなります。

## 事業費の概要

このたび整備する旧機業場建物整備のみに関する費用は、約3億2700万円となります。  
内訳は、交付金で約1億3100万円、起債で実質1億3600万円、一般財源で約6000万円の見込みとなります。

なお、借入金である起債については、今後、3年据え置いた後、12年間で毎年約1270万円を償還していく見込みであり、そのうち1割の127万円が地方交付税算入という形で勝山市に戻されます。

## 維持管理経費

維持管理経費は、年間1100万円となる試算をしていますが、詳細は活用計画を策定する中で確定していきます。管理運営には指定管理者方式をはじめ様々な選択肢があり、指定管理者としてもNPO法人や各種関係団体、民間業者などが考えられます。  
このように最小のコストで最大の効果を挙げ、市民の誇りと夢を育む施設にしたいと考えます。

## 利活用について

この旧機業場を保存し、活用するための先行事例を参考にするために、まちなか整備推進会議など有志のかたちと、京都府与謝野町にある「丹後ちりめん歴史館」および群馬県桐生市の「ノギリ屋根の工場群」を視察してきました。

「丹後ちりめん歴史館」は、倒産し廃業した由緒ある織物工場をまちの有志が買い取り、織機や撚糸機など古い機械を展示し、一部を動かして丹後ちりめんの歴史が分かる資料館になっています。ちりめんや産地で織られた絹織物をプリントした製品などを中心に販売するショップがあり、入場料は無料です。

一方、桐生市では、現在も250棟以上残っているノギリ屋根工場群の近代化遺産を博物館や資料館、彫刻家たちの共同アトリエ、ギャラリー、劇場、美容室、料亭にと様々な活用がされています。

## 勝山市旧機業場事業費

(仮称)おりものミュージアム		実施設計(千円)	備考
建物本体工事(改修・補強)		206,000	
内部展示工事		97,920	
基本設計		5,071	起債対象外
実施設計		10,164	
工事管理委託		8,000	
計		327,155	
財源内訳	交付金	130,862	事業費の40%
	起債	135,800	
	一般財源	60,493	
	計	327,155	

起債については交付税算入10%

## 保存の経緯

平成14年から、勝山市所有の建物として残された旧機業場の建物の保存について本格的な検討が始まりました。市文化財保護委員会など市民代表の学識経験者10人による「旧木下機業場および跡地利用検討委員会」が設置されて、10数回の協議の結果、「往時の絹織物工場の雰囲気を残した建物を活かし、勝山の繊維産業の歴史を保存し後世に伝えるとともに、周辺施設と連携しながら市民の交流の場、文化的な賑わい空間を創出する」として、保存を確認しました。



勝山市旧機業場内に保管されている糸繰り機

## 保存活用の必要性

全国の都市と同じように、勝山市でも中心市街地が空洞化し、少子高齢化が進んで「まち」としての本来の機能が失われつつあります。「まち」の機能を取り戻すには、「まち」をもう一度知ることが必要です。

近代工業の発展の歴史は、技術革新の歴史であり、繊維産業も例外ではありません。古い機械や建物は、「ミ」として捨てられ、産業遺産としてきわめて高い価値があるにもかかわらず、現存しているものも消滅していきます。さらに、勝山市の繊維産業は、近代において、このまちを形づくった大きな要因と考えられます。なぜなら、明治37年の専売制により煙草製造業者が繊維業に転換し、レーヨンの世界的な広まりから、繊維はまちの基幹産業となり、旺盛な労働力需要は旧村部に拡大しました。その結果、旧町と旧村の人的交流、経済交流が盛んとなり、1町8力村合併による現在の勝山市成立の基盤を形成してきました。

そのため、旧機業場の建物を活用して、このまちの成り立ち、発展の歴史、その原動力となった産業や文化、政治、教育など、先達の残した知恵や経験、努力のあとを目に見える形で次の世代に伝えていく施設として整備します。勝山市には現在、市の歴史を知り、その資料を見られる独立した公的施設がありません。自分の生まれ育ったまちの歴史を振り返り、まちに誇りを持つことは大切なことです。

## まちなか誘客効果

勝山市には、年間110万人の来訪者がありますが、主な観光地はすべて郊外にあります。恐竜博物館、スキージヤム、越前大仏、勝山城博物館、平泉寺。この来訪者を中心部に引き寄せるにはまちなかの魅力が必要でしょう。

旧機業場は、明治後期から大正期にかけて建てられ大規模に保存される建造物として、全国でもめずらしい産業遺産として注目を集めるでしょう。まちの誇りとして、市民の皆さんと一体となって活かしていきましょう。  
※詳しくは市ホームページをご覧ください

勝山市旧機業場活用検討委員会の委員の皆様を紹介します。(順不同・敬称略)

- (委員長) 和田 雅弘 勝山市区長連合会
- (副委員長) 林 昭 (社) 勝山青年会議所
- (委員) 増田 公輔 勝山市文化財保護委員会
- 松山 信裕 勝山市工芸ミュージアム協議会
- 白木 督三 勝山市繊維協会
- 小泉信太郎 勝山市繊維協会
- 木村美智子 勝山市小中学校研究会
- 細川 信男 (社) 勝山観光協会
- 嶋田 清子 勝山市男女共同ネットワーク
- 山内久美子 勝山市男女共同ネットワーク
- 荒井 由泰 勝山商工会議所
- 村上 忠義 一般公募
- 松田 英子 一般公募
- 川嶋 正己 一般公募
- 裕 知晴 一般公募

問 市街地活性化推進室(市内線308)